

「胃内視鏡治療 Strip biopsy の実際」

山口大学助教授・第1内科 多田 正弘 著

北里大学医学部教授・外科学

比 企 能 樹

「Strip biopsy の実際」という副題の、美しい内視鏡写真を表紙に戴いた本ができ上がり、手もとに送られて来た。

言うまでもなく、著者多田正弘氏は、日本における strip biopsy の開発者である。この本で多田氏はその開発の歴史から、胃内視鏡の観察法、strip biopsy の手技に至るまで、具体的な症例を美しい内視鏡写真とわかりやすい図で示しながら解いている。

こういう手技書は往々にしてあまりに初心者向けであったり、または学問的すぎて難解なものであるが、さすがたくさんの症例を持ち、確実な技術を持っている著者は、初歩から奥義まで、網羅して一冊の本にまとめられた。そして、何よりも満載された写真が美しいということである。

著者はこの本で、早期胃癌の診断

法から、内視鏡治療の適応、そしてその成績に至るまで、すべて自分自身のデータをもとに記載されている。殊に、癌の見つけかた、内視鏡による観察法を細やかに実例で示している点は、高く評価されて然るべきだと考える。この見事な説得力と一貫性は、自分の経験に基づき、こつこつと集積しないとできない強みであろう。

同時に内視鏡治療を志す者は、すべからく正確な内視鏡診断の、能力と技術を備える必要があることを示している。私は、この点に最も共鳴するものである。

strip biopsy というものは、内視鏡学において、今世紀の癌治療を変えた特筆すべき方法であると思っている。その方法を、日本で開発した多田氏の仕事は、世界に誇るべき偉業の1つだと確信する。その技法を、

着実に行ってきた、臨床家としての多田氏に敬服の念を抱くものである。

この本の序文として推薦の言葉を、世界消化器病学の雄であられる竹本忠良先生が書かれている。先生は多田氏の師であり、弟子のすべてを知っている方であるが、その竹本先生をして“大樹に育った最高級の消化器内視鏡研究者”と言わしめたことで、著者多田正弘氏がいかに優れた人かがよくわかる。

そして言うまでもないが、その著者が精魂込めて書いた、この「胃内視鏡治療」という本が、優れた本であることは間違いない。すべての内視鏡医にお薦めしたい一書である。

● B5 頁162 図38 写真29 カラー写真320 1998 定価(本体15,000円+税) 千400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)